

# みどりの通信

西北地域県民局  
地域農林水産部  
農業普及振興室

五所川原市栄町10  
電話0173-34-2111(代)

分室

つがる市木造桜木9-1  
電話0173-42-2222

本誌では、農業普及振興室の令和5年度重点普及指導計画(6課題)の取組結果を主体に紹介します。

## 1 品種特性を発揮する「青天の霹靂」及び「はれわたり」の高品質・安定生産

「青天の霹靂」は、全国に通用するブランド米として評価されています。また、新品種「はれわたり」の本格的な作付が始まったことから、西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームでは、「青天の霹靂」の良食味・安定生産と「はれわたり」のスムーズな普及拡大につなげる生産指導等を展開しています。

<取組の成果等>

- ① 指導拠点ほの設置、夏季現地巡回、現地講習会の開催等により関係機関や生産者と情報共有を図りました。
- ② 「青天の霹靂」新規作付者及び前年産の出荷基準未達成者等に対し、高温対策も含めた適切な管理指導や「青天ナビ」を活用した適期追肥・適期刈取を指導しました。その結果、「青天の霹靂」新規作付者等の出荷基準達成率が100%となりました。
- ③ 「はれわたり」指導拠点ほ担当農家に対する品種特性に応じた栽培管理の指導や、生産者向け研修会の開催等を通じて品種特性を周知した結果、次年度の作付面積が約1,300haに倍増する見込みとなっています。



プロジェクトチーム夏季現地巡回

## 2 スマート農業を活用した大規模稲作省力・低コスト技術の普及

当地域では、大区画ほ場整備とともに、人工衛星の位置情報を高精度に伝える固定基地局(RTK-GNSS)の設置が進んでおり、これらを活用したスマート農業一貫作業体系の組み立てによる経営面の検証やスマート農業機械導入の啓発により、省力・低コストでかつ高品質生産が可能な技術の普及拡大を図っています。

<取組の成果等>

- ① 西北型水田農業推進協議会を開催し、西北地域に適したスマート農業導入の戦略づくりを行うとともに、今後の取組方向や推進体制を明確にしました。
- ② スマート農業一貫作業体系と省力・安定多収技術を実証したところ、作業時間短縮(約28%)と作業人員減が可能なことが明らかになりました。
- ③ スマート農業実演会や研修会の開催、SNSの活用などの啓発活動を行ったほか、機械導入を支援する県単事業の活用を図ったところ、スマート農業導入経営体が令和4年度の210戸から368戸に増加しました。



自動操舵による大豆中耕作業の実証

### 3 中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及

中泊町十三湖地区をはじめとする中小規模稲作経営体では、米価下落を見据え複合経営を進めていく必要があるものの、高収益作物である野菜導入が進んでいない状況がみられています。

その要因として、野菜導入時の作業時間や収益性への不安があることから、普及展示ほを設置し、作業時間や収益性、実践事例を周知するとともに、省力化技術の実証や技術を習得する研修機会を設けるなど、高収益野菜の普及拡大に向けた取組を行っています。

<取組の成果等>

- ① 比較的労働負担が少なく、水稻と作業が競合しないブロッコリーととうもろこしの普及展示ほを設置し、生産者がスマート農機を活用した作業の省力化技術や作付体系等の実際作業に触れて、理解を深める現地検討会を開催しました。
- ② 「水田への野菜導入セミナー」を開催し、普及展示ほの実証試験結果や他県の優良事例、露地野菜のスマート農業の最新情報等の紹介を通して、野菜導入の機運や意欲を高めました。
- ③ これらの取組により、中泊町において野菜導入（水稻＋ブロッコリー、にんにく）の経営体数が令和4年度の11戸から14戸に着実に増加しています。



ドローンによるとうもろこしへの薬剤散布実演

### 4 水稻育苗ハウスを活用した「シャインマスカット」の生産拡大

西北地域の中でも、稲作単一経営体が多い中泊町の農業者を対象に、安定した複合経営の確立を目指している中泊町の生産者を対象に、水稻育苗ハウスを活用した「シャインマスカット」の生産拡大に取り組んでいます。

中泊町の農業者はぶどう栽培の経験が少なく、栽培に関する基本的な知識や技術が不足していることから、関係機関との連携を強化し、栽培技術の習得に向けた支援を展開しています。

<取組の成果等>

- ① 展示ほを設置し、延べ66名の生産者に対して、主要作業に合わせた栽培講習会を実施したことで、適期栽培管理の必要性について理解が深まりました。
- ② 記録的な夏場の高温などで生育のバラツキが大きい年だったことから、延べ14回、17名に対し、個別巡回により苗木の管理や樹の仕立て方等の栽培技術を指導しました。
- ③ 講習会の際などに、中泊町シャインマスカット生産者協議会の会員や作付希望者との間で情報共有や交換が進み、品質が向上し、年々出荷量も増加しています。



栽培講習会

## 5 地域経営体の育成確保と共助・共存の農山漁村づくり

農村地域の人口減・高齢化や耕作放棄地等を踏まえながら、地域の農林水産業の中核を担う経営体の経営力強化や地域活動の促進を支援しました。

また、関係機関と連携し、自発的に共助・共存の農山漁村づくりに取り組む地域運営組織の育成・確保を支援しました。

<取組の成果等>

- ① 各市町担い手総合支援協議会等と連携のもと、地域貢献マネジメント事業を活用し、意見交換会や先進地視察等を通じて地域経営体の育成に取り組んだ結果、地域経営体数が118から125に増加しました。
- ② また、意欲的な経営体において、新たに集落維持活動への参画や耕作放棄地の未然防止に向けた取組など地域貢献度がより高い活動が実施されました。
- ③ 地域運営組織のモデル対象「三好をあじあう会（五所川原市）」が行う座談会への参画などにより自主的な活動を支援しました。

その結果、地元食材料理レシピの開発や伝統芸能（獅子舞）の他地区との競演が実現するなど、地域資源を生かした新たな地域コミュニティの活性化につながりました。



料理レシピ発表

## 6 地域を支える農山漁村起業の推進

西北管内の農山漁村女性による起業活動は、地域経済の活性化や女性の社会参画、地域貢献にも寄与しています。一方、各組織では高齢化対策、魅力ある商品や体験メニューづくり、起業開始時の収益確保など、段階に応じた支援が必要となっています。また、人口減少社会が進む中で、地域において様々な共助の仕組みづくりが急務となっています。

このため、高齢者への配食サービスや移動販売、若い世代への郷土料理伝承など、「食」を生かした地域貢献活動を展開できる起業家の育成に取り組みました。

<取組の成果等>

- ① 漬物加工をテーマとした講座の開催や、個別指導による乾燥果実や調味料の技術指導、補助事業の活用による施設整備等の支援を行った結果、新商品開発や直売活動の開始など、女性起業家3者が新たな取組にチャレンジしました。
- ② 女性起業家や若手農業者を対象に料理技術を学ぶ研修会を開催し、郷土料理を伝承しました。
- ③ 地域貢献活動のモデル実証に応募した女性起業家を支援した結果、「ゆうあファーム」が共同調理とスポーツによる住民交流イベントを、「阿部農園」が地域人材を活用した多世代交流イベントを開催するなど、地域の課題解決活動が実践されました。



郷土料理を学ぶ女性起業家

## 「みどり計画」の認定について

県では、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を目指す「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた「みどりの食料システム法」に基づき、農林水産業者による環境負荷の低減に取り組む5年間の事業計画（みどり計画）を認定する取組を令和5年9月からスタートしました。

西北管内では、これまでに3経営体が認定されています。

<みどり計画に認定された経営体>

(単位：ha)

認定日	市町名	経営体名	環境負荷低減事業活動の内容			
			対象作物名	類型	現状面積	目標面積
R5.12.15	中泊町	有限会社瑞宝	水稻、小麦、大豆、にんにく	有機質資材の施用による土づくり及び化学肥料・化学農薬の使用減少	122.5	143.8
R6.1.25	つがる市	小笠原 俊也	水稻	有機質資材の施用による土づくり及び化学肥料・化学農薬の使用減少	3.5	8.5
		野呂 修聖	大豆		12	12

## 「あおり土づくりの匠」の認定について

県では、農業者の土づくりに対する意欲向上を図るため、高度な土づくりを実践し、地域農業のリーダーとして健康な土づくりの指導的な役割を担う農業者を「あおり土づくりの匠」として、平成24年度から認定しています。

かずさと

本年度、当管内からは五所川原市の「境谷 一智」氏が認定されました。

境谷氏は、水稻と大豆を150ha栽培しているほか、稲わら収集280ha、無人ヘリ防除750haなどに取り組んでいる「有限会社 豊心ファーム」の代表取締役として活躍する中で、水稻の特別栽培、県南の畜産農家への稲わら販売と畜産農家からの牛ふん堆肥の購入・化学合成農薬・化学肥料にも力を注いでいます。



境谷 一智氏



大型ロールベラーによる稲わら収集

## 令和5年産「あおりの旨い米グランプリ」受賞者の紹介

板柳町 山内金男氏が「まっしぐら」の部でグランプリ、鶴岡町 須藤繁喜氏が準グランプリを獲得しました。両者は長年、「まっしぐら」の地区生育観測ほを担当しており、稲わらを毎年すき込んで土づくりに努めています。

また、今年は高温の影響が懸念されたため、山内氏は刈取に向けた早期落水の防止、須藤氏は用水路と水田内の水温を比較して、用水路の水温が低い場合にかん水するなど、きめ細やかな水管理による良食味・高品質米生産を心がけ、高評価につなげています。



授賞式（手前左が須藤繁喜氏、右から二人目が山内金男氏（代理））

## りんご生産者の皆さん、「コンフューザーR」を設置しましょう！

シンクイムシ類やハマキムシ類の防除は、次のような様々な問題に直面しており、殺虫剤だけで抑えることが難しい状況になっています。

<シンクイムシ類・ハマキムシ類の防除に関する問題>

現在、効果がある（殺虫できる）殺虫剤が1種類しかないリンゴコカクモンハマキが各地で確認され、大きな被害も発生。

シンクイムシ類の殺虫剤は4つの系統しかなく、そのうちの1系統は今後数年の間にほとんどの剤が使用中止となる予定。

温暖化に伴ってモモシンクイガの防除可能な期間が短くなっているため、現状15日間隔の殺虫剤散布では防除が困難。

このため県では次世代の害虫の数を減らすことができる交信攪乱剤「コンフューザーR」を防除暦の基準薬剤に採用しましたので、生産者皆さん「コンフューザーR」設置しましょう。